



気になるニオイの話

日常において、人が絶えず感じ取っている「ニオイ」。その感じ方には個人差があり、同じものでも人によって強弱や好き嫌いが異なります。

そもそもニオイとは、空気中の揮発性の物質（におい物質）が鼻腔にあるセンサーの働きをする細胞にくっつき、その刺激が脳に伝わることで生じる感覚です。諸説ありますが、におい物質は数十万種もあると言われていて、その多くは生物の代謝によって生じるもの、すなわち、生物由来のものなのです。体臭やペット臭等は動物が発するものなのでもちろんですが、排水臭、汚水臭、生ごみ臭等は、すべて原因となる汚れ等にカビや細菌が発生することによります。

そういった嫌なニオイに対して、ニオイ対策商品を使うことがあるかと思

います。厚生労働省ではこれらの商品とその機能に応じて、下表のように定義、分類しています。用途によってターゲットにしているニオイの原因物質や、機能による得意不得意が違いますので、その用途に合うものを使うようにしましょう。

嫌なニオイに対する最も重要な対策は、原因となる汚れ等を清掃して無くすことです。しかし、手が届かない場所にある時や、染みついてとれない強力なニオイの時は、ニオイを届かなくする閉塞や、専門業者が持つ強力な消臭剤等による対策が必要です。弊社でも様々な強烈なニオイをターゲットとした、バイオ消臭剤を取り扱っております。ニオイでお困りの際は、ご相談ください。

表 芳香・消臭・脱臭・防臭剤の機能分類（厚生労働省の定義による）

芳香剤	消臭剤	脱臭剤	防臭剤
空間に芳香を付与	臭気を化学的・生物的 作用等で除去または緩和	臭気を物理的作用等で 除去または緩和 (接触した臭気を吸着)	臭気を他の香り等でマ スキング
より強いニオイで ごまかす	ニオイ物質を分解	ニオイ物質を除去	ニオイ物質を包み隠す

今月の豆知識

縄文時代から続くゴキブリとの関わり

みんなの嫌われ者の黒光りする虫、ゴキブリ。3億年前から存在していたと言われ、生きた化石とも言われています。人間より長い歴史のあるゴキブリについて、近年の熊本大学の研究で、日本人との関わりは縄文時代以前からであることが分かりました。

これまでは、平安時代（約1000年前）の文献に日本原産のヤマトゴキブリという種類が登場していることから、日本人とゴキブリとの付き合いはこの頃からだと考えられていました。そんな中、縄文時代（約4300年前）の土器の表面に、今や全国で見られる種類のクロゴキブリの卵鞘があったことが発見されたのです。クロゴキブリは江戸時代後期（約200年前）に船やその荷物に付いて中国から日本に上陸し、

全国に広まったと考えられていました。しかし、土器からの発見でその説は覆されるかもしれません。

さらに、縄文時代の土器からは、現代では貯蔵米の害虫として知られるコクゾウムシも発見されています。当時はまだ農耕が起っておらず、クリやドングリ等の貯蔵堅果類を食べていたため、これらを食害していたと考えられています。

4300年前の人も、家の中や食べ物から不意に虫が出てきて、驚いたりしていたのでしょうか。虫を通じてとなると妙ですが、文明が発展していない時代の人と同じ思いをしていると思うとなんだか不思議に感じませんか？

